

立神峡だより

落ち葉の季節 腐葉土に最適な落ち葉ありませんか？

12月に入るとキャンプ場に日陰を作ってくれていた、どんぐりの木もその役目を終え、落葉していきます。今年も、その季節が到来。これを待っている人も沢山あります。この落ち葉は、腐葉土作りにはもってこいです。

特に、家庭菜園をやる人や無農薬にこだわる人には、キャンプ場にある落ち葉は最高です。管理する立場にとっても取りに来てくれた方が好都合。

また、どんぐりの実も大量にあります。子どもさんの工作作りやどんぐり虫作りにはこれまた最高です。

みなさんのお越しをお待ちしております。大きな袋や松葉掻きなどご用意ください。



竜北東小の3年生が立神峡見学に訪れる

11月11日(木)に、竜北東小の3年生33人が立神峡の見学に訪れました。

管理棟において、立神峡の公園全体の管理状況・施設など概要を説明。その後、河童の話や火打石の事・吊り橋の事などについて質問。みんな、元気よくハキハキとした質問が返ってきて気持ちのいい一時でした。公園の事について、子どもらしい視点で質問していたのが印象的でした。

また、河原では火打石のを見つけ方や、実際に火が出るところを確認したり、好奇心旺盛で、どれが本物の火打石か見比べながらも必死で火打石を探していました。

この経験を通じて立神峡の素晴らしさを実感してもらえれば幸いです。



ラインは人と人をつなぎ距離をも乗り越す

今回はラインにより、つながる仲間たちの話題です。

宿泊の予約が入り、受付をしたところ、コスプレの撮影を公園内でしたいので許可して欲しいとの事。もちろんOKですと答え、ロッジの鍵を渡し、程なくするとコスプレの衣装をした女の子3人が登場。話を聞くと、その中の一人は何と大阪から来たとの事。ラインつながりで仲間になりこの日を迎えたとの事。

コスプレは最近では立神峡をそのメッカにしたいと考えておりこれまでも積極的に受け入れて来ましたが、ラインつながりで人と人が出会いその距離を一気に乗り越す現代社会のネット環境は素晴らしいと感じた次第。

今後共、様々なツールを活用した取り組みを行っていききたいと思います。



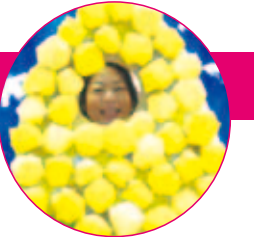
【お問い合わせ先】 立神峡公園管理棟

☎ 62-1543 FAX62-1546 (8:30~17:30 火曜定休日)



◀立神峡里地公園 HP

地域おこし協力隊 蜂須景子の活動レポート (Vol.12)



10月15日(金)に竜北中学校で開催された起業体験活動で、染め物の指導をさせていただきました。蓮の葉と梨の木で布を染めて、ハンカチ、バッグ、巾着、クルミぼたんを3年生8人と作り、販売しました。輪ゴムで絞りをいれ、染め、輪ゴムを外すのが大変な作業でしたが、色んな話に盛り上がり、楽しいときを過ごしました。

10月30日(土)には料理教室を開催し、辛子蓮根、蓮根辛子漬、雲パン、海老せんをを作りました。初めて辛子蓮根を作られた参加者は、簡単にでき驚かれていました。残った味噌を使い、きゅうり漬けも作ってもらいました。「とても美味しくて、また作ってみます。」と声をいただくなど、好評でした。



◀地域おこし協力隊
インスタグラム



料理教室～簡単料理で里芋と豚肉のバターしょうゆ煮、簡単無限ぬか漬け風漬物、絶品ヨーグルト味噌汁～

◆日 時 12月18日(土)10時 ◆場 所 氷川町公民館調理室 ◆参加費 500円(当日徴収)

◆申込方法 12月13日(月)までに氏名、電話番号をご連絡ください。

◆持参物 エプロン、三角巾、マスク、手ふきタオル、保冷バッグ(持ち帰り用) 問 地域おこし協力隊 ☎52-5854

俳句

今年また目白のつがい訪れる
西上宮 村内 一誠

浮く鴨や氷川の水はやさしかり
北野津 井田 道寛

打ち立てしスコップにもず止る登
西野津 古崎スエノ

絵手紙や艶めくブドウの友便り
西野津 古崎 栄子

木犀の香り灰かに漂いぬ
吉本 高橋 澄子

短歌

手作りの鳥もちを張り鳥かごへ
近づく目白息ひそめ待つ
西上宮 村内 一誠

たちねの母なるみかん山里に
たわわに熟れてもぐばかりなり
北野津 井田 道寛

旧友の四人集まり談笑す
変らぬ人も変りし人も
西野津 古崎スエノ

里芋のさらさら光る玉の雨
左右に転ぶ秋時雨
西野津 古崎 栄子

木犀の香る朝の庭に出で
その苗呉れし人惚びけり
吉本 高橋 澄子

投稿について

・誤字防止のため楷書で記入し、漢字には全て読みがなをふって投稿してください。
・電話番号を記載してください。
・毎月5日必着

投稿先

〒869-4814 氷川町島地642番地
企画財政課 企画係
☎52-5850

「雪国」VS「山の音」どっちが

法道寺 本田 花風

川端は旅の出会いから生まれた作品と語っているが、主人公島村は私ではないと否定している。しかし、島村は自身を文筆家と言っている。駒子のモデルは芸者松栄(本名は小高キク)は実在の女性である。また、作品のラストに起る火災を川端自身が目撃している。島村はかなりの部分で川端がモデルとは言えなくもなく、島村に川端自身を投影しているように思うが違いうだろうか。

「雪国」は、島村・駒子・葉子のわずかな三人の登場人物によって支えられているのだが、「島村」は、川端が書いて作者自身から遠く人物を狙って嫌悪と憎悪を向けた落書き(らくばく)「二人ばつで寂しい」たる虚像であることによつて、「雪国」一遍における地位は転落する。島村の胸は珍重すべき空虚ながらんどうである虚像にすぎず、もちろん生きていない。島村を背景にして描かれた駒子や葉子が、島村の胸奥の琴線に触れる時に、なまなましく生かされるというたからくりにはすぎない。

①川端が「雪国」で描いたのは、西洋舞踊趣味(島村の趣味のこと)を持つ無為徒食(何もせず、ただ無駄に毎日を過ごすこと)の島村ではなく、駒子の生き方であり、また葉子の異常な生命である。「雪国」の恐るべき作品構成のからくりはここにある。

雪中の火事は実際に起こったことと川端は語っている。その凛烈な雪中火事のフィナーレの描写を「雪国」の最後に付け加えることによって生ずる作品の価値に対して、厳正な反省時日(落ち込んで引きずること)を要したためであった。(川端康成論著・長谷川泉より)